明治三十八年九月一日發行

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

愛をもて眞理を行ひ長ちて
凡てのこと首なるキリスト
に效はしめんためなり（以弗所四〇十五）

第二巻第五號

女子基督教青年會とは何ぞや（三）　社説
開書　女子基督教青年會萬國幹事スペンサー孃
聖書研究――モーセ　ハンド孃
月草　しづのや
雜錄――萬國女子學生基督教青年會々議
德島女子青年會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子

『明治の女子』は日本基督教女子青年會の創立委員が發行する月刊の聖書研究錄なり。
『明治の女子』は一年分十二冊の定價郵稅を併せて金五十錢。
發行所は東京市麹町區土手三番町十五番地
日本基督教女子青年會の創立委員は

委員長 ホイットマン孃
幹　事 ルキス孃
ワージントン孃
ウェスト孃
津田（梅子）孃
花井夫人
ヘルム夫人
フィシャー夫人
平野孃
小崎夫人
エリス孃
ソーパー孃
フェルプス孃
ハミルトン孃
ザーフルー孃
佐藤（錦子）孃
河井（道子）孃
萬國基督教女子青年會日本支部幹事 モリソン孃
同　上 エー、シー、マクドナルド孃

明治三十七年八月廿八日印刷 （定價 一冊四錢 郵稅五厘）
明治三十八年九月一日發行 （一年分（十二冊）郵稅共五十錢）

東京市麹町區土手三番町十五番地
發行兼編輯人 テー、イー、モリソン
東京市京橋區築地二丁目二十番地
印刷人 河本龜之助
東京市京橋區築地二丁目廿一番地
印刷所 株式會社國光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第二巻第五號　明治三十八年九月一日發行

明治の女子

基督敎女子青年會とは何ぞや（三）

米國女子基督敎青年會

今より十九年前なりと覺ゆ、合衆國の西部に於ける一大學の青年女子六人、堅確なる希望と目的とを以て一小團結を成せり。その頃、同大學に於て、青年男子の一群、基督敎青年會なるものを組織し、その目的として會員互に靈性上の奬勵をなし、またその友人を基督の下に導くことを勉め居たりき、是に於て、かの六人の女學生も、これと等しき親交と、等しき使命との全うせらるべきを感じて、等しく青年會を組織したり

かくて彼等は、女子基督敎青年會の最初の祈禱會を催せしに、神の祝福豐にして、いつしか西部地方に於る各大學を始め、東部、南部各地方に渉り、到る處として青年會の組織せられざるはなく、今日に於ては、合衆國に於ける大學の多數は、この機關の設備を見るに至れり。

米國女子基督敎青年會の目的とする處も、またすべての青年女子の生理上、社交上、智識上、靈性上の進歩發達を計るにありて、その事業の方針を大別して二となす。第一、女子學生は身體上、智識上の供給を學校に仰ぐことを得るを以て、これらのものに對する女子青年會の事業は、重に社會上、靈性上の方面に存することを知るべし、而も社交の點に於ては各級の生徒絶えず一堂に集りて、互に相知り、相交り、以てその友情を深厚ならしむることを得、また靈性上の點に於ては、常例の禮拜や、特別の集會や、聖書の研究會によりて、その信仰を强固ならしむることを得。

されど米國に於ては女子青年會の事業を以て單に學

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生の間に限らず、すべての青年女子を包括せんとするにあり。大都會に於ては、青年女子にして種々の職業に從事するもの、その其數甚多し、殊にその都會に於て、商工業の中心點となれる部分には、種々なる階級の青年女子相集れるを以て、彼等の爲に靈性上、社交上の機關を設けて、よくこれを指導する所なかるべからず。而してまた生理上の點に於ては體操所を設け、智識上の點に於ては、語學、歴史、その他の學術を授くるの法を備ふ。

後年、米國女子青年會は、その事業を擴張して、工女のためにも、またその力を盡すに至れり。かねて工場の持主と相計り、一定の時間を設けて、その場内に働ける工女を訪ふ。この訪問は、終歳變化なき勞働に從事せる彼等にとりて、云ふべからざる慰藉となるが常なり。

終りに、米國に於て、この學生青年會及び市青年會に對する最大の祝福とも云ふ可きは、毎年開設せらるる夏期會合なりとす、この會合に關しては、既に前號の誌上に揭げたれば、こゝには贅せず。

開書

いま日本の女子青年諸君に、親しくこの書を捧ぐるを得るは、また格別の光榮と存候。私は東京及び横濱に於て、五年の間相働きたること有之候ため、日本のあらゆる事物に對して、常に深き趣味を有し、また日本の女子青年に對して、常に温き好情を有するものに候。されば私は、こゝに日本女子基督教青年會の創設せられて、その基礎、漸次强固の域に赴かんとするを知り、恭悦の至りに存居候。

回顧すれば、レイノルド孃が貴國を訪ひ、初めてこの機關を設くべき計畫をなしたるは明治三十二年に候神の聖旨は現にこの時よりあらはれ居たりしを知りて一同欣喜措く處を知らず候、女子基督教青年會萬國委員は、同盟諸國の中に日本を加ふることを以て、無上の光榮と存候。而して諸君もまた、必ず女子青年のた

めに設けられたる、世界的大運動に屬することをよろこび給ふべきを相信候。今日世界の文明諸國に於ては婦人のために設けられたる青年會なるもの丶存立せざるはなし。その組織に多少の相異こそあれ、かく種々なる政體を形づくれる諸國の青年女子が、共に一致團結して、耶蘇基督を愛し、かつ他の青年女子を主の下に導くことを勉めんとするは、誠に驚くべき現象にあらずや。

女子基督敎青年會は、今より五十年前、初めて英國に於て組織せられ候。依て本年四月五日、これが祝會を相催候。當日倫敦オルバート、ホールに集れる會衆は、無慮一萬五千人の多きに及び候。これらの人々はいづれも青年會の事業を賛成して、これに同情を表せんと欲せるものに候。この日は、有益なる演說、知名の紳士によりて述べられ、また優雅なる音樂、妙齡の淑女によりて奏せられ、殊に旗行列の如き、なか〳〵めざましく相見候。およそ女子基督敎青年會の存立せる諸國の國旗は、悉くこれを揭げ、日本の國旗の通過する時などは、拍手喝采、一方ならぬ賑合に候、これ眞に英國が東洋に於ける同盟國に對し、忠實熱誠の念を表するものに候。

かくの如く、英國に於て、女子基督敎青年會の創設せられてより、僅に五十年を經、かつ當時の會員は、一二階級の青年に止まりしが、今やこの種の組織殆んど世界の各地に普及し、あらゆる階級の婦人を包括するに至りたり。

されど我等の事業たるや、只この普及の廣大なるに至るのみならず、また著しく各種の婦人に適するものなることを認め候。ある國の如きは、その會員中に、廣く下婢、女工、職人を含み、またある國の如きは、學生、その他職業を有するものも、みな會員の中に加へ候。さればこれら種々なる階級にある婦人の要求に應せんとせば、その事業の方法も、亦從つて多樣ならざるを得ず。されど殆んど各地を通じて、ある一定の事業の形式なるもの相存し候。青年會館の設置は、殆んど到る處にこれを見ることを得候。瑞典、印度、埃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

及加奈佗の如きは、最もその必要なるを認め候。佛國巴里に於ては、その地に遊學し或はその地に勞働せる英米青年女子のために設けたる青年宿舍あり。また獨國伯林に於ても、幾多の青年宿舍の設置せられたるものあり。各種の青年女子のために、それ〴〵の設備をなし、いづれも美麗にして清潔なる處、たしかに人々の心をひくに足るもの有之候。

又我等の事業として、一般に行はれつゝある他の一は晝食と休息室の設備に候。巴里に於ては、佛國婦人によりて、四個の割烹所を設けて、實務に從事する青年女子の晝食を供給いたし居候。中央割烹所の如きに至りては、實に清潔にして快よく、食卓を列ねたる處また瀟洒を極む、而してその食物も甚だ廉價也。

上海に於て工女のために傳道せる一人の幹事の如きは、水車に近く一茶店を借りうけ、その二階をおのれの住居として、階下は同地婦人の集會所といたし居候一週日の間、種々の會合を催し、或は聖書或はよみかき、その他有益なることを敎へ候。而して幹事が、ひる頃、水車を訪ふ時、少女の群は、恰も晝食の最中に候故、その場に於て、彼等と共に、ある會を催し候。さきつ日、ある水車の持主は、かゝる會合の用にとてオルガンを求めて、これを幹事に寄附したるよしに候支那に於ける新年の如き祝日には、多くの婦人を招いて、茶を喫しながら、社交を試み候。また歌をうたうて相樂み、有益なる基督敎に關する講話を聞かせ候。かつ日曜の午後には宗敎的會合を催して多くの婦人を招き候。

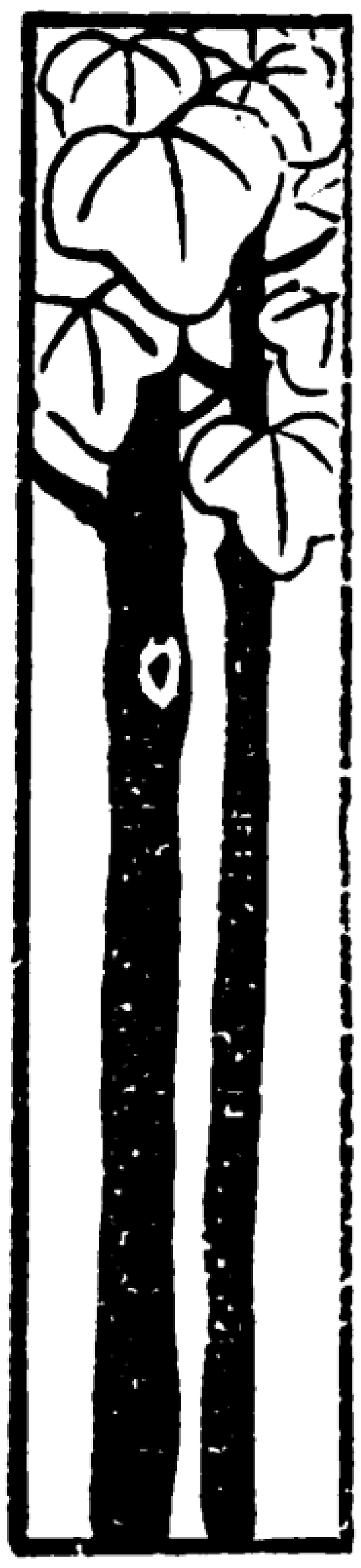
尙我等の事業中、極めて緊要なるものは聖書研究に候。この研究會を設けざる青年會とてはいづこにも殆んと無之位に候故、これに就いて申述べたく存候得共今時なきを憾みとす。明年五月巴里に於て我等は第三回萬國女子青年會々議を開設する積りに候。而して青年女子が、世界の各地方より、代表者として、これに出席せらるゝやう相招き候。日本に於けるわが青年會員諸姉が、この會議の開設中は申すに及ばす、その以前に於ける計畫準備についても、我等が神のみたまに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よりて導かれ得るやう、何卒常に祈禱の折に御忘れくだされまじきやう願ひたく候。而してまた、この會議に連なる代表者の中に、日本及び支那の青年女子諸君に御めにかゝる機會を得んことを相望み申候。若しそれ東洋に於ける青年女子の助成を仰ぐにあらずんば、この會議も十分の成績を見ること能はざる可く候。かつ日本基督教青年女子諸君に懇請いたし候ことは、この世界を通じて―殊に印度、加奈陀、支那に於て―われ等の事業の必須なることを御認めなされ、我等のこの世界大運動の指導者たる主耶蘇基督の下に、同地方に於ける 青年女子をみちびき得るやう 御祈り 被下度候。かしく

女子基督教青年會萬國幹事

クラリッサ、エッチ、スペンサー



聖書研究

モーセ

ハンド孃

第一。準備の時代

埃及、四十年。

ミデアン、四十年。

使徒行傳七〇廿三、廿九、卅。

●一日。純紲の民。出埃及記一〇。

(一)次の三語に現れたる神の選民たる條件は何ぞ。

(ア)十一節、十二節。

(イ)十四節。

(ウ)廿二節。

(二)こゝに記されたる他の純紲とは何ぞや。

參照。羅馬書七〇廿三。

仝　六〇廿三。

仝　七〇廿四。

(三)神はおのが選びたる民を忘れ給ひしや。

參照。出埃及記三〇七。

何物も神の經營を妨ぐること能はず。

參照。出埃及記一〇十、廿。

●二日。解放者の誕生。出埃及記二〇一―十。

(一)モーセの兩親の性格は如何。

參照。希伯來書十一〇廿三。

(二)王の怒とにくみとより救はれたる他の解放者は誰ぞ

(三)モーセがその畢生の事業に着手する前に、彼が第一に遭遇したる鍛錬は何ぞや。(十節)。使徒行傳七〇廿二を比べ見よ。

私考。日常の見聞は神に事ふる精神を養ふ。

●三日。偉大なる撰擇。希伯來書十一〇廿四―廿七。

(一)左の諸項は如何なるものなりしや。

(ア)信仰の撰擇。

(イ)信仰の報償。

(ウ)信仰の希望。

(二)モーセはいづこに信仰の敎訓を得たりしや。(廿三節)。出埃及記二〇九を參照せよ。

(三)信仰の先導者となりて、これを完うするものは誰ぞや。希伯來書十二〇二を參照せよ。

私考。神はその僕を選び給ふ、されど僕もまた神を選びて、自ら惑ふ所あるべからず。

●四日。失敗の敎訓。出埃及記二〇十一―十五。使徒行傳七〇廿三―廿九。

(一)モーセが行爲の動機は正當なりしや。(使徒行傳七〇廿五)。

(二)彼が過誤と失敗の原因は何ぞや。約書亞記九〇十四を參照せよ。

(三)おのれに賴る人は、何事を成し得るや。約翰傳十五〇五を參照せよ。

私考。おのが心誠實なりといへども、尙ほ神に賴りたのみて、彼の示し給ふ道を學ぶに如かず。

●四日。忍耐の敎訓。出埃及記二〇十五―廿二。使徒行傳七〇廿九―卅。

(一)荒野に於ける敎訓は何なりしや。詩篇卅七〇七。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(二)モーセがその畢生の事業に着手せし時の年齢は幾何なりしや。出埃及記七〇七を参照せよ。

(三)神の僕にして、モーセの外に、忍耐を以て神の命を待ちのぞむことを學びし人々は誰ぞや。(ベテレヘムの羊牧者及びナザレの大工に就いて考ふべし)。

私考。神の召命を待ちのぞみながら費す處の時間はその結果決して空しくならざるもの也。

●六日。信頼の教訓。出埃及記三〇四〇。

(一)第二章に於て、モーセはあまりに深く、おのれの力に頼れり、されど本日の日課に於て、彼が抱く處の思想の如何なるかを見よ。(三〇十一、十三。三〇一、十、十三)。

(二)人間の疑惑に對する神の限りなき忍耐は、何事を示すや。

(三)モーセは如何なる特權を失ひしや、而してその失ひし理由は如何。(四〇十四—十六)。

私考。眞正なる謙遜とは、己を小なりと爲すことにあらずして、神を大なりと爲すこと也。即ちおのれの強さを忘れ、またおのれの弱さを忘れて、偏に神を望むをいふ。

●七日。從順の教訓。出埃及記五〇—十一〇

(一)モーセは如何にして、神に對するおのが信頼の心を現はせしや。(七〇六、十、廿。八〇十六、十七)。

(二)モーセがその心を堅確强固にすることを得たりしは、何に因るか。(五〇廿二。八〇十二、卅。十〇十八)。

(三)從順の結果は何なりしや。(八〇十三、卅一。九〇卅三。十〇十八、十九)。

私考。我等神に聽かば、神また我等に聽き給ふべし

第二。奉仕の時代

●八日。民族の解放。出埃及記十二〇。十三〇。

(一)神は如何にしてイスラエル人を救ひ給ひしや。(十二〇五十一)。十二〇廿八、卅五を參照せよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(二)モーセは自らイスラエル人の導者(みちびきて)となることを求めしや。(十三〇三、八、九)。
(三)モーセの謙遜と信仰とは何を表するか。(十三〇十一)。
私考。神が滅亡の國を救はんとの計畫は、只神のみにもあらず、また人のみにもあらず、神と人とによりて着手せらるべき也。

●九日。解放者の試練。出埃及記十四〇。
(一)モーセが蒙れる外部の試練は何ぞや。(九節)。
(二)モーセが蒙れる内部の試練は何ぞや。(十一、十二節)。
(三)モーセは如何にして試練に臨みしや、而してその結果は如何。(十三、卅、卅一節)。
私考。患難は神の僕をして、神に向つて無上の信頼心を保たしむ。

●十日。重大なる任務。出埃及記十五〇廿三—廿七。十六〇一—十五。十七〇一—七。
(一)モーセはかくまでおのれの力を致したる人々より、感謝のむくゐを得たりしや。(十五〇廿四。十六〇二、三。十七〇二、三)。
(二)また人々は、モーセの指導に對し、やさしき從順を表して、これにむくゐしや(十六〇廿。十七〇四)。
(三)人々のつぶやき、不忠實、不從順は、モーセの彼等に對する愛顧の心を變ぜしめたるや。(哥林多後書十二〇十五)。
私考。やさしからぬもの、恩を知らぬものを愛してよくこれに仕ふるをこそ、神聖なる愛とはいふべけれ。

●十一日。解放者の謙退。出埃及記十八〇。
(一)モーセが神に對する謙遜は、何を示すや。
(二)またその外舅に對する謙遜は、何を示すや。
(三)またその民に對する謙遜は、何を示すや。
私考。謙遜なる神の僕は、おのが事業に就いて、他人と計り、またこれを共にするを常とすべし。

●十二日。失意の時代。民數記略十一〇。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一モーセの不平は、單にその民に關してのみなりしや。(十一節)。

(二)十四節に於て、モーセが忘れたるものは何なりしや(三、四章を參照せよ)。

(三)神は如何にして、おのが失意の僕を助け給ひしや。(十六、十七節)。

私考。『エオバの己をおそるゝ者をあはれみたまふことは、父がその子をあはれむが如し。エホバは我儕のつくられし狀を知り、われらの塵なることを念ひたまへばなり。』詩篇百三〇十三、十四。

●十三日。同情なき家庭。民敎記略十二〇。

(一)モーセの兄弟姉妹が、冷酷なる言を發したる眞因は何ぞや。而してモーセは如何なる反對の精神を持せしや。民敎記略十一〇廿九を參照せよ。

(二)モーセが常に期待し得たる處のものは何人の同情なりしか。而してその同情は、いま如何にして現れたりや。

(三)モーセは如何にして嫉妬と冷酷とに遭遇せしや羅馬書十二〇廿一を參照せよ。

私考。『爾曹を虐遇(なやめ)迫害(せむる)ものゝために祈る』は、これ即ち善をもて惡に勝つ也。

●十四日、譴責に忠實なること。民敎記略十六〇。

(一)モーセは如何なる人々を譴責せしや(二節)、而して何故これを爲せしや(十一、卅節)。

(二)モーセは如何なる心を以て、彼等を譴め、彼等を罰せしや(四節)。

(三)また誰の命令によりて、それを爲せしや。

私考。罪人のために、最も深く心を痛むるものは、最もよく罪を責むることを得べし。

●十五日。墳墓の罪。民敎記略廿〇一―十三。

(一)モーセの罪根は何ぞや。

(二)モーセはたれに向つて、如何にして罪を犯せしや。

(三)何故モーセの刑罰はかく嚴酷なりしや。

私考。わが日每の生活は、忠實に神の忍耐と慈愛とを表現しつゝありや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●十六日。神と共に働く。民數記略廿一〇四―九。
(一)民はたれに向ってつぶやきしや。
(二)民はその懺悔と懇求とに於て、神とモーセの關係を如何に見しや。
(三)神は如何なる救濟の法を設け給ひしや、而してこの事は、如何にして基督の豫表となりしや。約翰傳三〇十四―十六を參照せよ。
私考。『もし人、その兄弟の罪を犯すを見ば、祈りて罪を犯すものに生を予ふべし。

第三。神の僕の内部的生活

●十七日。祈禱の生活。出埃及記十五〇廿五。十七〇四。卅二〇七―十四。卅三〇十二―十七。
(一)モーセはその祈禱を献ぐるに、重に自身のためにせしや、若くはその民のためにせしや。
(二)モーセは世間的幸福のため、若くは靈性的祝福のために、但しはこの兩者のために祈りしや。
(三)モーセは神に向つて大事を求むることを憚りしや。

私考。神の前には、大に過ぐるものもなければ、また小に過ぐるものもなし。
●十八日。神に接近す。出埃及記十九〇十六―廿五。廿〇十八―廿一。
(一)われは『山の上』に來れとよび給ふ神のみ聲を聞きたるか。(十九〇廿)。
(二)モーセは何故懼れざりしや。(廿〇廿一)。われはかの『民』に似たりや、はたモーセに似たりや。前者に似たりとせば、その故如何。
私考。『我等はおのが神に接近せる距離以上に、他人を導いて、神に近かしむることを得ず。』
●十九日。神と面接す。出埃及記卅三〇。
(一)この親密なる神との交通は、人との隔離を促せしや。而して今日はその時期にあらざるか。
(二)モーセは如何にして、十一節に示すが如き友情を保つに足るものなるを表明せしや。
(三)モーセはこの實驗を以て滿足せしや、若くは『更に進んで』懇求する處ありしや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私考。その性格神に似たる處あるものにして、初めて神を見、かつ彼を知ることを得べし。

●廿日。親密なる交通の結果。出埃及記卅四〇廿九―卅五。

(一)この交通の結果はいかなりしや(卅節)。哥林多前書三〇十八を參照せよ。(また民數記略十二〇三に於けるモーセの性格に心をとめよ)。

(二)モーセは自らおのが姿の變りをれるを知れりしや。

(三)モーセの顔の光と、すがた變れる基督のかゞやきとの相異如何。(路加傳九〇廿九)。而して我等が放つべき光明は、おのれより出づるものなるか、或はまた他より反射するものなるか。加拉太書二〇廿を參照せよ。

私考。モーセの祈禱。『我等の神、エホバの佳美をわれらのうへにのぞましめたまへ』。詩篇九十〇十七。

●廿一日。モーセの應驗なき祈禱。申命記三〇廿一―廿九。四〇廿一、廿二。

(一)モーセはこの剝奪に會ひて、大に悲みしや。

(二)モーセの祈禱は、いつも應驗なかりしや。路加傳九〇卅、卅一。

(三)イスラエル人をカナンの地に導くことと、神の子を慰めんがために、天よりカナンの地に遣はさるると、その特權いづれか大なりや。

私考。神はとこしへに變ることなく、おのが民の祈禱を聽きたまふ也。

●廿二日。モーセが野の歌。詩篇九十〇。

(一)モーセがこの世の住居はいづこなりしや。とつ國の宮殿も、さびしき荒野も、人なき曠原も、等しく彼を神の家に導くことを得べかりしや。

(二)モーセをして神の性格を洞觀するを得しめたるは、彼が荒野に於ける經驗にあるか。

(三)モーセがくり返して捧げたる三回の祈禱に於て如何なる進境を認め得るか。

私考。この世にある神の子供にして、神のうちに、ゆるぎなき住居を發見し得ざるまでに、寂寞孤獨の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

狀態にあるものは、一人もあることなし。

●廿三日。モーセが追憶の歌。申命記卅二〇。

(一)師のをしへをかしこく、貴からしむる要素は何ぞや。(二、三節)。

(二)モーセは如何なる名をもて、五たび神を呼びまつりしや。而してこれを想起せしむる荒野の經驗は何々なりしや。哥林多書十〇四を參照せよ。

(三)十二節は、荒野の旅行に於ける試錬と、憂愁とを充分に表明せるか。

私考。『エホバは直き路に導き給へり』詩篇百七〇七

第四。救主の豫表たるモーセ

●廿四日。十字架を擇びとる。希伯來書十一〇廿五、廿六。

(一)モーセが最初四十年の生涯と、最後八十年の生涯とを比べ見よ。彼は神とその民とのために損つる處多かりしや。

(二)キリストが我等のために遺し給ひしものは何ぞや。哥林多後書八〇九。

(三)モーセとキリストと、その謙遜及び痛苦の程度果して如何、比べ見るべし。報償とは何ぞや。希伯來書十二〇一、二を參照せよ。

私考。ムーデー氏曰く、神は罪なき一人の子を有ち給ひしかど、未だ苦なき子を有ち給へることなしと

●廿五日。同情の友。希伯來書十一〇廿五。使徒行傳十二〇廿三。

(一)モーセは『宮殿に於ける友』として留まりたらんには、却つてよくその民を助け、かつこれを救ひ得たりしにはあらざるか。

(二)神の全き同情の眞因は何處にありや。希伯來書四〇十五を參照せよ。

(三)神は今日もその民と共にくるしみ給ふか。使徒行傳九〇四、五。馬太傳廿五〇四十、四十五を參照せよ。

私考。我等は遠く相離れて、人々を助け、これを救はんと欲するも得べからず。自ら進んで彼等の在る處に行かざるべからず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●廿六日。寛仁謙虚の友。出埃及記卅二〇七―十四。民數記略十四〇十一―十九。

(一)このたびモーセが遭遇したる誘惑は何なりしや。(十節)。

(二)モーセの寛仁謙虚は何人の豫表なりや。(出埃及記卅二〇一、十二、十三)。路加傳廿三〇卅四を參照せよ。

(三)我等が人を容るゝの程度は幾何なるべきや。以弗所書四〇卅二を參照せよ。

私考。自身の進歩と、神の民の發達と、われに於ていづれを先きにすべきか。

●廿七日。神の代表者。出埃及記四〇十六。七〇一。十八〇十九、廿。

(一)モーセは祭司として、その民のために神と語れり。豫言者として、彼は何事を成せしや。

(二)我等の使徒にして、祭司の長は誰なるか。申命記十八〇十三。希伯來書三〇一―五を參照せよ。

(三)我等は如何にして父を見、かつ彼を知るべきや約翰傳十四〇六―九。

私考。『使徒の職は、神を人に近づかしめ、祭司の職は、人を神に近かしむ』。

●廿八日。罪のために痛む。出埃及記卅四〇九。民數記略九〇十六―十八。

(一)モーセをして深刻なる痛苦を感せしめたるものは何ぞや。

(二)キリストをして涕泣せしめたる一大恨事は何ぞや。馬太傳廿三〇卅七―卅九を讀むべし。

(三)『キリストの苦に與る』とは何の謂ぞ。腓立比書三〇十を參照せよ。

私考。單にキリストのために忍びて苦を受くるのみならず、また人々の罪のために苦むこそ、眞にキリストの苦に與るものとはいふべけれ。

●廿九日。最大の犧牲。出埃及記卅二〇卅―卅二。

(一)モーセが忘恩の民のために、おのれを献げし時に、將に來らんとする如何なる事件について、神はみ心をとめ給はざるを得ざりしや。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(二)この經驗が、キリストの變貌の時に、モーセに與へたる處のものは何ぞや。路加傳九〇卅、卅一を參照せよ。

(三)モーセは如何にして默示錄に於てかく尊まれしや。默示錄十五〇三を參照せよ。

私考。彼等『のために死たり』。帖撒羅尼迦前書五〇十。『我等は兄弟のために生命を捐つべし』。約翰前書三〇十六。

●三十日。我等が大なる祭司の長の豫表。出埃及記十七〇八―十六。

(一)勝利は谷中に戰へる人々によりて得られしや、またはは山上にありて仲保をなせるモーセによりて得られしや。

(二)我等が勝利の秘訣は何ぞや。羅馬書八〇卅四―卅七。

(三)我等はキリストの懇求によりて幾何の勝利を得べきや。希伯來書七〇廿五。

私考。『戰勝者よりも遙に大なり』。

月ぐさ

しづのや

他の弱點を追窮して、また起つ能はざらしむるに至る、快ば則ち快なりといへども、しかも能くこれを忍ぶものにして、初めて人に敬愛せらる。

✿　✿　✿　✿　✿

人に物品を與へて、適當なる謝辭をうくるは嬉し、されどその物の實際用ゐられつゝあるを知るに至つては、うれしさ一しほなるを覺ゆ。

✿　✿　✿　✿　✿

間斷なく活動するは固より貴ぶべしといへども、また靜思默想の暇を得ざれば、その品性に崇高を乏ぐの患あり。いかに忙しき人も、その生活に秩序を保たば、餘裕また自ら生ずべし。

✿　✿　✿　✿　✿

心のたしかならぬ人ほど、世に厄介なるものはあらじ。眞正なる敵は、二心の味方に勝る。一年過はず、十歲會せず、而して尙は昔日の交情を改めざるものにして、初めてたのもしき親友とすべきにあらずや。恒心は諸德の礎也。

✿　✿　✿　✿　✿

怒るは善し、されど怒るべからざる時に怒るが故に、醒めてのち悔るが常也。人に對して怒るは、おのれの見識と品格とを以て、これをその人のと對等の地に留むるより來ること多し。自重の念是に於てか必あるを見る。

✿　✿　✿　✿　✿

愛はそれ東流の水の如し、途すがら幾頃の田畑を濕すと共に、遂にはおのれ大海の懷に抱かるゝにあらずんば、その安んずる處を見ざる也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雜録

●萬國女子學生基督青年會々議

本年五月三日より七日まで、ホルランドに於て同會議を開設したりしが、これに出席したる代表者の國別を擧ぐれば、米國、英國、和蘭、デンマーク、瑞典威諾、フインランド、獨逸、佛國、瑞西、西班牙、以太利、印度、支那、日本、南亞弗利加等也。

岩もる滴水も、積りては水磨を轉ずるの勢あり。今日世界に於て、一地方、若くは一敎會が婦人のために與ふる基督敎的感化は、未だ甚だ微々たるものなるを知る。されどかく散逸せる勢力を糾合して、一般の婦人社會に向つて、これを注ぐの妙域に達せば、その功果實に量るべからざるものあるや疑なし。

本會議の如き、正しくこの目的を遂ぐるに最も必要なることはいふまでもなし。各代表者は、本會議に於て、その思想、その經驗を交換して、尠からぬ奬勵と利益とを齎して、各その本國に歸りたりといふ。例へば、

（一）すべての女子は、これを導きて、耶蘇基督に於けるが如く、完き眞理を識らしむべきものなること、

（二）女子學生の間に基督敎を宣傳するの急務なること、

（三）世界に於ける神の經營を完うする最大捷徑は、たしかに熱心なる祈禱にあること、

等の如き、各自最も深く感觸したる處なりといふ。

次回の會議は、明後年日本に於て開設することに決したり。我等日本の女子青年たるもの、いかでこれが準備のために、かつ祈り、かつ盡さずして止むべけんや。

●德島女子基督敎青年會

イー、リットソン

『全世界は、黃金の鎖によりて、
神のみ足のへにつながる』（テニソン）

今回德島に於て、女子基督敎青年會創設せらる。その目的とする處のもの、果してよく發揮せらるゝに於てはその効果また計るべからざるものあらん。

日本の青年女子は、その姉妹と身遠く相離るといへども、カーライルがいひける如く、『互に天に望んで、靈

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と靈と相交通する處、寧ろ神秘なるものありて存す』。

德島青年會は、重にわが敎會の青年信者の感化によりて成立したるもの也。想ふに、この青年會が、德島に於て大に歡迎せられたることを聞く人々は、必ず他の地方に於ても、青年會組織の適切なることを感得すべし。

その起原は青年女子―高等女學校の生徒、裁縫學校の生徒、及び師範學校の敎師―にありて、彼等相計るに將來共に團結せんことを以てしたり。而して最初の集會に於ては、上述の青年女子が出席したるのみならず高等女學校長山岡君またこれに臨まる。山岡君が我等の計畫に同情を寄せられたる所以は、單に世上一般の女子青年會の名にあるにあらずして、日本の青年女子が、他の諸外國と同一の目的と、大望とを抱く青年女子と共に、世界的感化及び世界的關係を保有するに至るの一事これ也。

君が席上に於て述べられたる興味ある講話中、最も深くわが心に感じたる點を擧ぐれば、高尙健全なる人格を養成するの必要を主張し、而してこれが不易の果を結ばしめんと欲せば、その人格に向つて、外部より注入することなく、内部より開發せざるべからずとせられたるにあり。また君が、從來日本の諸外國より受けたる良訓數多あれど、すべての事物の原動力たるべき内部的感化の力を求めずして、單に外部的結果を過重したる失誤を指摘せられたるが如き、大に聽衆の注意を喚起せり。

本會に於ては、五十名内外の婦人の出席者を見る、その内三十三名は、既に會員たることを望むとの申込を得たり。

本會幹事の二名は、いづれも敎師にして、一は高等女學校の戸塲夫人。他は師範學校の海野孃なりとす。

我等はこの新に加はれる萬國女子基督敎青年會員のために、心を同うして祈らんことを欲す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

There is also singing which they enjoy, and talks are given about Christ and His love for young women. On Sunday afternoons there are also religious meetings to which the women are invited.

Had I time, I should like to tell of our Bible study which forms such an important part of our Association work that there is scarcely an Association anywhere which has not some sort of Bible class for its members.

In May 1906, we hope to hold our Third World's Conference at Paris, to which we are inviting young women as delegates from all parts of the world. May we ask all our association members in Japan to remember this conference constantly in prayer, that we may have God's Spirit with us in all our plans and preparations for the conference, as well as in the conference itself. Among the number of our delegates at our conference we are hoping to greet young women from Japan and China, and indeed the conference will not be all that it ought to be unless we can have the helpful inspiring presence of some young women from the Orient.

And we would also lay upon the hearts of the Christian young women of Japan the needs of our Assocation work throughout the world but especially in India, Ceylon and China asking you to pray that God may enable us to bring many of the young women of these lands to the feet of Jesus Christ, who is our Master and Leader in this world-wide movement among young women.

Clarissa H. Spencer.

NOTES.

Many will remember Miss Clarissa Spencer who was for five years a missionary in Japan. After her return to America she engaged in the work of the Young Women's Christian Association and upon Miss Reynold's resignation was chosen to be Secretary of the World's Association. In the midst of her many duties she has found time to write something specially for us and we print with appreciation in both English and Japanese the words of greeting from our world's Secretary.

On Aug. 25th a meeting of the Promoting Committee was held in Karuizawa with eight members present.

At the June meeting of the Committee Miss Amy G. Lewis of Yokohama was elected to fill the place made vacant by Miss Wyckoff's resignation. The Committee welcome Miss Lewis and expect to realize much help from her earnest interest in the association.

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

nigh every land, and is reaching almost all classes of women. Among the lands where it now exists, are to be found almost all the countries of Europe, the United States and Canada, part sof South America, Egypt and South Africa, Australasia, India and Ceylon, China and Japan.

Within one month we have had visitors in our World's Office from India, Australia, South Africa, Sweden, Germany aud the United States, all of whom were interested in one way or another in the Young Women's Christian Association.

But not only is our work world-wide in its scope, but it is marvellously suited to women in all stations of life as well. While in some countries our membership is largely confined to domestic servants, factory and business women, in others we have also amongst our members, students, professional women, and women of leisure.

To meet the needs of these many classes of women, we must have varying methods. Yet there are certain features of the work that appear in almost every land. The Association Home is an almost universal institution, and is to be found in such widely separated countries as Sweden and India, Egypt and Canada.

In Paris there is a beautiful Association Home for British and American girls who are studying or working in the city.

In Berlin there are a number of Homes, some for factory girls, others for business women, teachers, and for ladies travelling, varying in price, but all very nice, clean and attractive.

Another widely-spread feature of our work is the noon lunch and rest rooms. In Paris the French ladies have opened four restaurants where business women can obtain their noon-day meal.

The central restaurant is delightfully clean and bright with neatly set tables, and attractive and inexpensive food. In Buenos Ayres, Argentine Republic, a similar lunch room is being opened for the many women at work in that large city. One secretary who is devoting her whole time to work for factory women in Shanghai has rented a tea-house near the mills, the upper floor of which she uses for her own home, the lower one being a meeting place for the women. Classes are held here during the week in which the women are taught the Bible, and also reading, writing, crocheting, and other useful things. The secretary visits the mills at the noon-hour, when the girls are eating their dinners, and holds meetings with them there. Recently, a proprietor of one of the mills gave the secretary an organ that she might use in these noon meetings. On Fête-days, such as Chinese New Year's, the women are invited to the rooms for tea and social intercourse.

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

WORDS OF GREETING FROM OUR WORLDS SECRETARY.

It is with special pleasure that I send words of greeting to the young women of Japan. I shall always have a deep interest in everything Japanese, and a very tender feeling in my heart for Japanese young women because of my five years' work in Tokyo and Yokohama. I send you not only my greetings, but also my congratulations that a real beginning has been made, and the foundations are being laid of the Japanese Young Women's Christian Association.

Many of us well remember the first steps that were taken to effect this organization during Miss Reynold's visit to Japan in 1899, and we rejoice together over what God has already brought to pass. The World's Committee of the Young Women's Christian Association is very proud indeed to include Japan among the countries which are affiliated with it, and they believe that you too have reason to be glad that you belong to this world-wide movement among young women. In all the leading nations of the world to-day there is some form of Association work for women, and it is wonderful to realize that so many young women of different nationalities are thus banding themselves together to love the Lord Jesus, and to bring others to Him.

The Young Women's Christian Association was first organized in Great Britain just fifty years ago, so our British sisters are celebrating their Jubilee this year. Many Jubilee meetings are being held throughout England, Ireland and Scotland, but the most remarkable one which has yet taken place, occurred on April 5th, when an audience of fifteen thousand people gathered together in the great Albert Hall, London, to show their interest in the work, and their appreciation of it. Lord Kinnaird, son of one of the founders, and present president of our British Young Women's Christian Association, took the chair; several addresses were given by gentlemen who were friends of the Association, there was beautiful music by a large choir of young women, and a procession of banners representing the countries throughout the world in which the Young Women's Christian Association exists. When Japan's banner was brought forward, it was greeted by tremendous applause and great enthusiasm, for Great Britain is very loyal to its ally in the Far East, and greatly interested in everything Japanese.

Although the Young Women's Christian Association was organized fifty years ago in Great Britain, and for only one or two classes of young women, it has now spread to well-

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

It will be warm enough when we begin to fight.'

"'It is not that. I ask you, as a favour, to allow me for a little while to leave my post. I cannot tell you why, but if you grant me leave, I promise you, you won't regret it.'

"'Impossible! You want to go to Paris. If I give you leave, I cannot deny it to the rest.'

"'No, not to Paris,' said he. smiling, 'but in that direction,' pointing towards the German lines. 'I shan't be long.'

"He had roused my curiosity. I granted him permission, but warned him that he would most probably get killed.

"'No fear,' he said, and, leaping over the ramparts, he walked into the middle of the plain.

"We followed him with our eyes, listening for the sharp crack of the enemy's rifles and expecting at every step to see him fall. Not a sound, save the crunching of the frozen snow beneath his feet. As soon as he had come within hearing of the German sentinels he paused, saluted, and began to sing a well-known Christmas hymn with the refrain:

"'Noel Noel Christ is King of Israel!'

"It was so unexpected and so simply done, the strain took from the night, the scene, the circumstances such a beauty and sublimity, that the least religious of them hung upon his lips and the hardest-hearted in the trench were moved. The Germans neither spoke nor stirred. It seemed as if a spell had bound them all in silence and in immobility. The simple strain had doubtless made them think of home and of the happy groups around the glittering Christmas trees beyond the Rhine. They were evidently listening, for no other sound was audible—not a step, not a movement of arms. As soon as X—— had done his hymn, he gave another salute, turned on his heels as on a pivot, and deliberately walked to our line.

"'Well, Captain,' said he, 'are you sorry you gave me leave?'

"Before I could reply, a soldier had begun to move across the snow from the opposite camp. He, like X——, saluted and, between the companies of armed men, sang a lovely German version of the 'Noel, Noel!' that the French recruit had sung. I had given orders, though they were superfluous, not to fire on him. He sang the hymn through, verse by verse, and when he came to the refrain, the soldiers in both camps joined in the chorus—

"'Noel! Noel! Christ hath ransomed Israel!'

"The same emotion filled all hearts. All diversities and enmities had been forgotten in the Presence of the Prince of Peace. A few hours later we began to fire again.',

400

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

none of His ways, perhaps, compel our wonder and our adoration more than His great patience does. Just to think through all the long, long ages — how the passions of men were heaping up sins against a holy God; sins that were going unpunished, sins that were not being reckoned with, sins that were being passed over in the forbearance of God! *When the fulness of the time came* God sent forth His Son and at last, after centuries, every sin was thoroughly reckoned with. Their penalty was exacted to the full from the Lord Jesus. He paid the full price of redemption and rendered void every bit of the Enemy's claim. What then? Did He see His enemies at once cut down— His people wholly set free? Not yet. As He ascended up on high He heard the Father saying "Sit thou on my right hand until I make thine enemies my footstool" So He sat down from henceforth expecting. Nineteen hundred years have passed since His work was finished and still He is expecting till His enemies be made the footstool of His feet. Can you and I look into that Face and keep Him longer waiting—waiting to possess us utterly.

"One thing I know, I cannot say Him nay,

One thing I do, I press toward the mark.

Only as this is our attitude can His Holy Spirit work in us and through us to bring His Crowning Day. Can we remember Him and have the heart to delay it?

AN INCIDENT IN THE FRANCO-PRUSSIAN WAR.

"On the night preceding the 25th of December, 1870," began the Captain, "I was in command of a company of volunteers, engaged in the defence of Paris. The siege had already lasted three months, and in the trenches my brave comrades were enduring martyrdom of suffering and privation. The cold was biting bitterly, the stars were shivering in the cloudless sky, the moon shone brightly on the snow-clad plain between us and the enemy; the German trenches were so close to us that we could hear the passwords of their sentinels as, hour by hour, they were relieved and passed into their camp.

"As I was walking about to keep my feet from freezing, one of my men came up to me, and saluting, said, 'Captain, I have a strange request to make; I want you to permit me for a little while to leave the trenches.'

"'Leave the trenches?' I replied. 'But why? Because it is so cold?

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Young Women of Japan

Vol. II | September, 1905 | No. 5

FROM HENCEFORTH EXPECTING.

He expecteth, He expecteth!
Down the stream of time,
Still the words come softly ringing
Like a chime.

Ofttimes faint, now waxing louder
As the hour draws near,
When the King, in all His glory,
Shall appear.

He is waiting with long patience
For His crowning day,
For that kingdom which shall never
Pass away.

And till every tribe and nation
Bow before His throne,
He expecteth loyal service
From His own.

He expecteth—but He heareth
Still the bitter cry
From earth's millions, "Come and help us,
For we die."

He expecteth—doth He see us
Busy here and there,
Heedless of those pleading
Accents of despair?

Shall we—dare we disappoint Him?
Brethren, let us rise!
He who died for us is watching
From the skies;—

Watching till His royal banner
Floateth far and wide,
Till He seeth of His travail
Satisfied!

Alice J. Janvrin.

"He, when he had offered one saerifice for sins forever sat down on the right hand of God from henceforth expecting till His enemies be made the footstool of His feet."

"As the heavens are higher than the earth so are His ways higher than our ways?" Between all our ways and His there is the same immeasurable distance but in these days when every operation under man's hand is being reduced to the smallest point of time and the spirit of hurry dominates human life

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Young Women of Japan

Vol. II September 1905 No. 5

The "Young Women of Japan" is a Bible Study Monthly for young women published by the Promoting Committee of the Young Women's Christian Association in Japan Price 50 sen a year. Four *sen*, five *rin* a copy. Address 15 Dote Sambancho Kojimachi, Tokyo.

Promoting Committee of the Young Women's Christian Association in Japan.

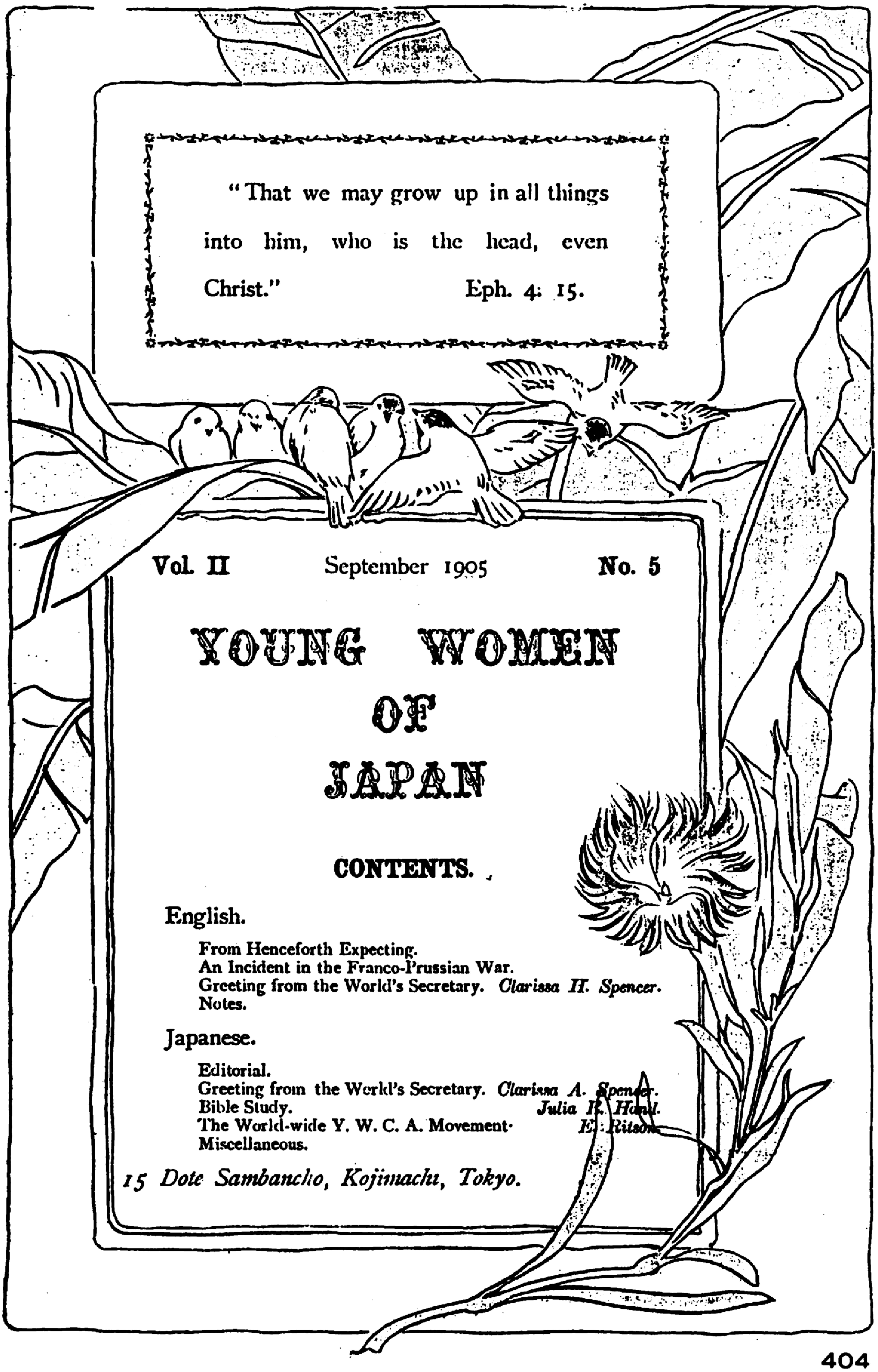
Miss M. A. Whitman, Chairman.
Miss Amy G. Lewis, Secretary.
Miss Ume Tsuda.
Miss A. B. West.
Mrs. G. K. Hanai.
Miss H. J. Worthington.
Mrs. V. W. Helm.
Mrs. G. M. Fisher.
Miss L. Hamilton.
Mrs. G. S. Phelps.
Miss L. Zurfluh.
Mrs. H. Kozaki.
Miss H. Hirano.
Miss S. Ellis.
Miss E. M. Soper.
Miss Kawai.
Miss Kin Sato.
Miss A. Caroline Macdonald } Secretaries of the
Miss Theresa E. Morrison }
World's Young Women's Christian Association in Japan.

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治三十八年九月一日發行

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可



"That we may grow up in all things into him, who is the head, even Christ." Eph. 4: 15.

Vol. II September 1905 **No. 5**

YOUNG WOMEN OF JAPAN

CONTENTS.

English.

From Henceforth Expecting.
An Incident in the Franco-Prussian War.
Greeting from the World's Secretary. *Clarissa H. Spencer.*
Notes.

Japanese.

Editorial.
Greeting from the World's Secretary. *Clarissa A. Spencer.*
Bible Study. *Julia R. Hand.*
The World-wide Y. W. C. A. Movement· *E. Ritson.*
Miscellaneous.

15 Dote Sambancho, Kojimachi, Tokyo.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA